

地域の中核病院としてより充実を

2019年の年頭あいさつが、仕事始めの1月4日に城西病院リハビリセ室で、達生堂グループの職員を集めて行われました。

年頭あいさつで多田正毅理事長は「12月29日から1月3日までの年末年始で、患者さんが401人、救急車は27台来ました。当直の方々は大変だったでしょうが、本来の地域の中核病院として動き出したと感じています」と年末年始の受け入れ状況を紹介したあと、「社会福祉法人、公益財団法人、そして今年認可が受けられるであろう社会医療法人の3つの柱で、中核病院としてもっと充実させたいと思っています」と抱負を語りました。そして白石裕比湖院長は「地域の核となる達生堂グループという自覚をもって、働いてほしい」とあいさつしました。

続いて恒例の今年の標語を発表。

「まあいいか！ 少しの油断が 事故まねく
意識しよう 焦るときこそ 深呼吸
ちゃんと見た？ 一文字ちがいの 一大事」

となったことを鈴木茂企画室長が紹介。多田理事長は「プライベートでの嫌なことは、『まあいいか！』とすぐに忘れてください」とコメントをしました。

最後に全員で「今年も頑張ろう」を三唱、新年のスタートを切りました。

2019年1月4日



一大事

ちゃんと見た？ 一文字ちがいの

深呼吸

意識しよう 焦るときこそ

少しの油断が 事故まねく

まあいいか！